

大阪のスーパーシティの 取組状況とフェーズアップについて

令和7年5月29日

大阪府・大阪市

大阪のスーパーシティのテーマ：データで広げる“健康といのち”

「健康といのち」をテーマに住民QoLを向上させる先端的服务を展開

1. これまでの取組

2025年大阪・関西万博をマイルストーンとして、「夢洲」・「うめきた2期」という2つのグリーンフィールドにおいて、「夢洲コンストラクション」、「大阪・関西万博」、「うめきた2期」といったプロジェクトを進めてきた。

データで広げる“健康といのち”



○夢洲コンストラクション

- ・大阪・関西万博に向け、2023年度から建設工事が本格化。
- ・規制・制度改革及び先端的服务により、工事現場内外の移動や、作業員の安全・健康管理の円滑化等を推進。

○大阪・関西万博

- ・「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした2025年大阪・関西万博において、ヘルスケアやモビリティ等の先端的服务に係る取組を実施。

○うめきた2期

- ・2024年9月、先行まちびらきを実施。
- ・IoT活用等により、人々が健康で豊かに生きるための新しい製品・サービスの創出につながる環境を整備。

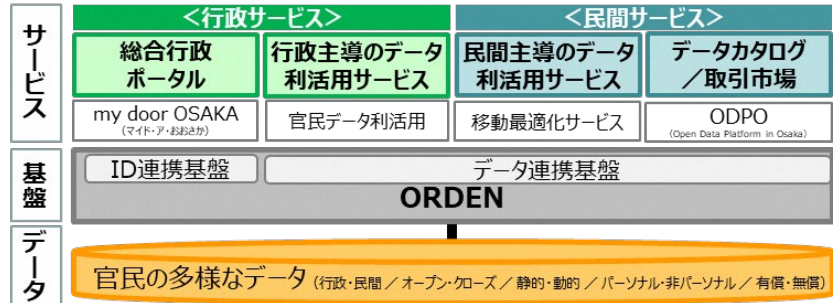
これまでに実現した主な規制改革・サービス

- ・AIを活用した気象予報に係る気象予報士の設置基準の緩和（2022.12に全国措置化）
- ・特定自動運行（自動運転走行（レベル4）の運転者がいない状態での自動運転）の許可制度の創設（2023.4に全国措置化）
- ・空飛ぶクルマの社会実装に向けた制度整備（2024.3に全国措置化）



大阪広域データ連携基盤【ORDEN】

様々な主体の多様なデータの利活用を促し、データ駆動型スマートシティを実現。2023年3月より稼働。総合行政ポータルサイトやデータカタログ機能等を基盤上に展開している。



2. 万博後の展開

大阪スーパーシティの持続的発展のため、万博後における新たな展開に係る府市の方針・取組等の具体化について検討をすすめる。

先端的サービス・規制改革

1 夢洲・うめきた 2 期におけるさらなる展開

万博後の未来社会の実現に向けた規制・制度改革に係る新規提案やプロジェクトで実現した先端的サービスの展開促進を図る。

事例 1 夢洲 2 期開発におけるサービスの実装
(夢洲コンストラクションで導入したAI気象予測サービス等の展開)



(株)大林組提供

事例 2 万博で実証した先端技術の社会実装
(自動運転や空飛ぶクルマ、大阪ヘルスケアパビリオンに出展するスタートアップ技術等)



Osaka Metro HPより

事例 3 うめきた 2 期全体まちびらきに向けたサービス開発
(スタートアップ等と連携し、PHRを活用した新たなサービスの創出等)



グングリーン大阪HPより

2 新たなフィールドへの展開

夢洲・うめきた 2 期以外のフィールドにおいても、新たにスーパーシティの取組を行おうとするエリア・企業等を大阪府・市が募集・選定し、エリアと企業等のマッチングや規制・制度改革提案の共同検討等を行い、先端的サービスが継続的に創出される仕組の構築に向け検討する。令和 8 年度以降、当該仕組の本格稼働を開始する。

【新たな展開のイメージ】



データ連携基盤【ORDEN】

3 データ連携基盤の利活用推進と共同利用展開

(1) 一層の利活用推進

my door OSAKA や ODPO など、実装しているサービスの更なる展開と、「夢洲」・「うめきた」・「新たなフィールド」における一層の利活用を推進する。

1. my door OSAKA

(マイド・ア・おおさか)
市町村展開、サービスの拡充



2. ODPO

(Open Data Platform in Osaka)

官民データの更なる拡充と利活用推進、ハッカソン等によるユースケース創出



ODPOカタログ

3. その他のデータ利活用推進

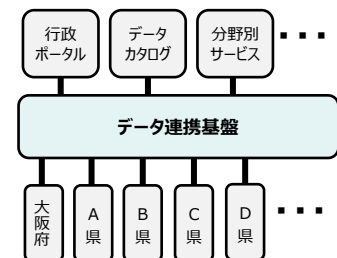
“移動最適化”サービスの展開、オープンデータの“見える化”の充実



(2) 地方公共団体間における共同利用展開

データ駆動型社会の実現を加速するとともに、その成果を横展開し、持続的に発展させるため、共同利用にも取り組む。

【共同利用イメージ】



① データ連携基盤の共同利用推進

開発・運用コストの低減や、多様で質の高いサービス提供等、共同利用に取り組む意義・メリットを整理・展開し、共同利用を推進する。

② 共同利用のためのスキーム構築

複数団体で持続的にデータ連携基盤を共同利用するスキームを設計・構築する。

